

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500498		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア見沼グループホーム		
所在地	埼玉県さいたま市見沼区南中野1038-1		
自己評価作成日	令和5年1月22日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事の準備・片付け、洗濯、掃除等できることはお手伝いしてもらい自宅と変わらない生活が送れるよう支援しています。  
 ご利用者一人、一人が自身のペースで生活していけるように支援しています。  
 その中で他者と関わりを持ち、円滑に集団生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR大宮駅から車で15分程にある、鉄骨造2階建て2ユニット定員18名のグループホームである。同法人が経営する小規模多機能型居宅介護施設が併設され、一体的な運営が行われている。周辺は住宅地で静かな環境である。入居者一人ひとりがご自身のペースで他の入居者と関わりを持ち、自宅と変わらない生活が送れるよう、支援している。『笑顔』『ところ』いつでも人が真ん中』を理念に掲げ、家庭的で穏やかな雰囲気の中で、充実した生活が送れるよう、一人ひとりに寄り添ったケアの提供に取り組んでいる。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和5年2月23日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示をして各自確認を実施している。	理念は玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしている。月1回、ミーティングで振り返り、意識の共有を図っている。日々業務中に理念に反する出来事などがあつた際には、管理者がその都度声をかけ、確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に介護施設が大変多いため運営推進会議では出席等のお願いができないことになっているが日常の挨拶や近所付き合いという範囲で交流を心がけている。	地域内に介護施設が多くあり、運営推進会議に自治会や近隣住民の参加依頼が難しい状態にある。地域との交流が進んではいないが、日常の散歩や外出時に挨拶を交わすなど、可能の範囲の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族を通して認知症の方への接し方や症状等を説明等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施。ご家族様からの質問や要望をいただいてサービスの向上に活かしている。	コロナ禍のため、今年度は運営推進会議は休止している。	コロナで通常の開催が困難な状況ではあるが、地域の理解や支援を得るための貴重な機会であるため、開催方法を工夫するなどの検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問・問題等が発生したときに指導をいただいたり、利用者様の代弁等をさせていただいている。	疑問点や分からないことなどを問い合わせ、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で理解・確認を実施し取り組んでいる。	3ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会を開催して身体拘束をしないケアの実践について話し合い、拘束による弊害やリスクなどを理解し、意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴・トイレ介助等に身体の観察や言動等を聞いて注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や資料を用いて学び活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をし必ずきちんと熟読していただくようにお話し疑問。質問に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族とのやり取りの仲でいただく意見を反映できるように努めている。	面会時やケアプラン更新時など、積極的に問いかけをして何でも言ってもらえるような雰囲気作りに心がけている。また、匿名アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案・意見が言い易い環境づくりに努め反映できるように心がけている。	申し送り時やミーティングの際に、意見や提案を聞いている。管理者は日頃からコミュニケーションに心がけ、働きやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績・勤務状況を把握し上司にもあげるなどして努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が必須となっている。実践の中でスキルが向上できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会を持てるよう努力しサービスが向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心できることを第一にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴に努め不安が除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としているサービスを職員とも話し合い見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話をする時間をなるべく設け関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは報告も兼ねてお手伝いしてもらえようことを提案し協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便等を含め人間関係等は途切れないよう支援に努めている。	現在、コロナのため面会などを自粛していただいているが、遠方の方との電話での会話やYouTubeでの住まい確認など、馴染みの関係が途切れないよう努めている。家族とは予約制で短時間の面会を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同の空間の環境に関しては常に配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況を応じて相談・支援をさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴に努めることで把握できるようになっている。	日々の業務や関わり、会話の中から一人ひとりの思いや希望を確認し、生活に反映できるよう検討している。家族と相談し、協力をいただきながら、どのように暮らすことが最良なのかを日々検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報と本人の話等で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過等を観察する中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	開設して丸3年が経過し入居者様のほとんどの方が状態が変化しているためカンファレンス等で見直しをしている。	本人や家族の要望を伺い、全職員で意見交換をして計画を作成している。状況変化の都度、話し合いを行って、現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しをして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員と話し合いをしながら柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ネットワーク等で情報を集め資源が活用できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院・医師との関係は大切なものなので家族・本人の気持ちを大切にできるよう支援している。	入居前のかかりつけ医の受診が可能で通院は原則、家族対応であるが、状況により管理者が対応することもある。協力医の往診が月2回、歯科と訪問看護週1回、薬剤管理が週2回、希望により訪問マッサージが週1回受けられ、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療と介護の連携が図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡を取りながら関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院・家族と話し合い、看取りについて対応できるよう環境を整えている。	重度化した場合の指針を定めており、入居契約時にホームで対応できる範囲について入居者、家族に説明を行っている。状態変化の都度、家族と話し合い、支援内容について方針を決めている。ホームでの看取りを希望された場合、可能であれば対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示等で対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と協力しての訓練ができるように努めている。	今年度は避難訓練の実施ができていない。昨年12月と2月に消防署よりDVDを借り、事業所内で消防の研修を行っている。また、備蓄品の使用期限などの見直しを行った。	万が一の災害に備え、地域の人達の協力が得られるよう、日頃から話し合いや呼びかけ等を工夫し、地域住民参加の夜間想定も含めた年2回の訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常々職員どうして注意をしながら対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、日々の関わりから周りに配慮した言葉かけや対応が出来るよう、ミーティングで話し合い、意識の共有を図っている。不適切な場面などに気付いた際には管理者が注意し、対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が不可能な方も必ず声をかけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されないよう職員同士で注意しながら希望に添える支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・準備・片付けを個々に合わせて実施している。	食材と献立は専門業者から仕入れ、職員が調理しており、行事食やおやつ作りを楽しんでいる。盛り付けや食器ふきなど、可能な方には出来る力を発揮していただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて配慮している。		
42		○口腔内 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別対応でしている。 グループホームに関しては訪問歯科対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を行っている。	個々の習慣や排泄パターンを把握し、職員同士で話し合い、一人ひとりに沿った対応方法を検討している。声かけやタイミングなど、支援方法を全職員で共有し、さり気ない支援に努め、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	小規模に関しては看護師が管理をしグループホームに関しては訪問診療・看護で管理している。。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせて対応している。	週2回、午前中にその日の気分や体調を考慮し、ゆっくり入浴していただけるよう支援している。入浴剤を提供し、楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と相談しながら安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	小規模・グループホームともに確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小規模・グループホームともに個々に合わせて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お店は立地的に対応が困難であるが外出レクリエーションや近所への散歩等で対応をしている。	現在はコロナ禍により外出を自粛していただいているが、天気の良い日には近隣に散歩に出掛けたり、2階の広いベランダで外気浴をするなど、気分転換をしていただいている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小規模・グループホームともにすでに自己管理ができなくなっている方たちのため支援はしていない。小規模も個人的にお金に係ることはやめてほしいという要望があるため支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にグループホームは個別で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や壁飾り等で季節感を感じてもらっている。また、事故防止のために整理整頓を心がけている。	季節の壁飾りなどで四季を感じていただけるよう、環境整備に努めている。リビングや廊下は整理整頓され、移動がしやすいよう、配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模・グループホームともに限られた空間ではあるが工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人と相談をして工夫をしている。	今迄の生活スタイルで暮らせるよう、使い慣れたものや思い出のものを持ち込んでいただき、自分の家として居心地よく過ごせるように配慮している。室内は職員が清掃し、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	小規模・グループホームともに個々のできることや役割を持つ等の目的で工夫をしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催ができていないため、地域の自治会長、町内会長、民生委員などとの関係性が薄い	リモートでも運営推進会議を開催していく	運営推進会議開催のため、地域の自治会長、町内会長、民生委員などがリモート実施ができる。状況が整っているかの確認を行う。その後、テスト行い開催日には実施を行う。	12ヶ月
2	35	具体的な避難訓練を行えていないため、実際の災害時には取るべき行動が見えてこない	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いていく	次回は小規模と合同で、夜間想定での避難訓練を行う上で、事前に訓練の実施内容、役割などの段取りを決めておき、いつでも訓練が行える体制を整えておく	6ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。